

三鷹市内には、太宰治の作品や研究書が読める「太宰治文学サロン」がある



昨年末、解体が始まる前に多くの人が渡りおさめをした三鷹市の跨線橋



思い出の跨線橋 価値を後世に

中央線や総武線が通るJR三鷹駅（三鷹市）に近く、昨年末から解体工事が始まつた三鷹跨線人道橋について、技術や歴史の観点から価値をまとめた調査報告書が完成した。跨線橋を愛した作家・太宰治の橋への思いにも触れられている。「太宰ファンも電車ファンも、よく散歩をしていた人も新しい視点で楽しめる」という。

市が工学院大学建築デザイン学科初田研究室に委託し、2021～23年度に調査。歴史的価値や技術的な価値を考察し、記録保存する目的で報告書をまとめた。

報告書によると、三鷹には昭和初期の1929年、電車網が都心に発達していく中で、ピストン輸送する場所として電車庫ができる。それに伴って離れ小島のように分断されてしまった上連雀地区の一部と結ぶのが、長さ約90㍍の跨線橋が造られた目的の一つだったという。行き交う列車や富士山を眺められる場所として、長く多くの人に愛されてきた。

市生涯学習課の学芸

三鷹市 工学院大学に調査委託し報告書

中央線や総武線が通るJR三鷹駅（三鷹市）に近く、昨年末から解体工事が始まつた三鷹跨線人道橋について、技術や歴史の観点から価値をまとめた調査報告書が完成した。跨線橋を愛した作家・太宰治の橋への思いにも觸れられている。「太宰ファンも電車ファンも、よく散歩をしていた人も新しい視点で楽しめる」という。

市が工学院大学建築デザイン学科初田研究室に委託し、2021～23年度に調査。歴史的価値や技術的な価値を考察し、記録保存する目的で報告書をまとめた。

「ちょっとといいところがある」

太宰治の写真や逸話も掲載

報告書には、三鷹跨線人道橋で撮られた太宰の写真5枚も掲載された。自死する4カ月前の1948年2月に、階段を下りたり、たばこを手にしたりしている場面が写されている。当時、太宰が

太宰治と『陸橋』の追憶」と題した文章で報告書に収載されている。太宰治文学サロン（三鷹市）の学芸員、吉永麻美さんが執筆した。

報告書は、市役所本庁舎で4月から販売（500円）されたが完売した。市内の公立図書館などで読める。増刷は未定

物に再利用されることが多く、跨線橋の柱やはりなどにも使われた。生産時の刻印から、1907年に八幡製鉄所（福岡県）で製造されたものや、1911年にドイツで造られたものがあることも分かるという。都内では、JR日暮里駅（荒川区）近くにある芋坂跨線橋が同様に古いレールを使つた跨線橋だという。

（平山亞理）